

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2020/12/31	2021/1/29	2021/1/29	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	27,444.17	27,663.39	27,663.39	28,979.53	2021/1/14	16,358.19	2020/3/19
NYダウ	ドル	30,606.48	29,982.62	29,982.62	31,272.22	2021/1/21	18,213.65	2020/3/23
円/ドル	円	103.25	104.68	104.68	114.55	2018/10/4	101.19	2020/3/9

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

~ 個人投資家の投機的な取引によって米国株市場に混乱が生じることへの警戒感から、下落 ~

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が▲968.06円(▲3.38%)、TOPIXが▲47.86ポイント(▲2.58%)となり、個人投資家の投機的な取引によって米国株市場に混乱が生じることへの警戒感から、下落しました。業種別(東証33業種)でみると、不動産業、水産・農林業、食料品などの4業種が上昇した一方、海運業、非鉄金属、鉄鋼などの29業種が下落しました。週初25日は、今週から本格化する2020年10-12月期の決算発表を前に好決算を期待した買いが優勢となり、上昇して始まりました。その後週半ばにかけては、国内外の企業業績の改善に対する期待が株価を押し上げる一方、高値警戒感による利益確定売りの動きが上値を抑えたことから、高値圏で一進一退の展開となりました。28日は、前日の米国株市場が個人投資家の投機的な売買への警戒感が高まったことなどから大幅安となった流れを受けて約半年ぶりの大幅下落となり、週末29日は、米新興ネット証券のロビンフッドが急騰していた銘柄への取引制限を緩和すると発表したことで個人投資家による投機的売買への警戒感が再燃し、下げ幅を拡大して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
2月1日	Mon	中国	財新中国製造業PMI(購買担当者景気指数)	1月	53.0
		欧州	ユーロ圏失業率	12月	+8.3%
		米国	ISM製造業景況指数	1月	60.5
2月2日	Tue	欧州	ユーロ圏GDP速報値(前期比)	10-12月期	+12.5%
		中国	財新サービス業PMI	1月	56.3
2月3日	Wed	欧州	ユーロ圏CPI(消費者物価指数)(除食品・エネルギー・たばこ/前年比)	1月	+0.2%
		米国	ISM非製造業景況指数	1月	57.7
		欧州	ユーロ圏小売売上高(前月比)	12月	▲6.1%
2月4日	Thu	米国	製造業受注(前月比)	12月	+1.0%
		日本	景気一致指数	12月	89.0
		日本	景気先行CI指数	12月	96.4
2月5日	Fri	ドイツ	製造業受注(前月比)	12月	+2.3%
		米国	貿易収支	12月	▲681億ドル
		米国	非農業部門雇用者数変化	1月	▲140千人

決算発表予定 他	国	決算発表	項目	期間	前回	
				2/1 みずほフィナンシャルグループ、レーザーテック、ロム、京セラ、任天堂、伊藤忠テクノソリューションズ、塩野義製薬、大塚商会、大阪ガス、小林製薬、日本航空 2/2 アイシン精機、デンソー、パナソニック、三井住友フィナンシャルグループ、三菱電機、日本精工、日本酸素HD、東ソー、東武鉄道、豊田自動織機、豊田通商、Motional RO 2/3 エーザイ、カカコ、シスメックス、ソー、ヒト電機、プラザー工業、三井物産、三菱ケミカルHD、三菱商事、丸紅、住友電気工業、日清食品HD、日立製作所、花王、野村HD、Zホールディングス、スクウェア・エニックスHD 2/4 アズビル、ヒトデン、NTTデータ、キョーマン、コナミHD、リパブリック、テルモ、メルカリ、ヤマハ、リコー、三菱ガス工業、三菱重工工業、中外製薬、伊藤忠商事、住友商事、協和キリン、参天製薬、大正製薬HD、ヤマダHD、武田薬品工業 2/5 ススキ、セコム、ダイワ、ミナベアミツ、三井不動産、三浦工業、京阪HD、島津製作所、日本製鉄、NTT、日産化学、阪急阪神HD、AGC、LIXIL、SUBARU、TIS	1月	▲140千人
決算発表予定 他	海外	決算発表	項目	2/1 NXPセミコンダクターズ 2/2 ファイザー、モービー、アマゾンウェブコム、アムソン、アリババグループHD、アルファベット、エーガン・モービル、UPS 2/3 アフラック、マクドナルド、イーベイ、カルコム、グラクソ・スミスクライン、シメンス、スポーツアイ・テクノロジー、バイオジェン、ヘイバルHD、ホルボ、レボ 2/4 ロンバHD、ロイヤル・ダッチ・シェル、メルク、フルトン・フィナンシャル、プリストル・マイヤーズ・スクイブ、フォード・モーター、フリック・モリス・インターナショナル、スナップオン、キリアド・サイエンシス、ドイツ銀行 2/5 BNPパリバ、サファイ、リジネロ	1月	▲140千人

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ 10-12月期決算発表における足元の業績底入れと、先行きの改善期待から持ち直す ~

今週の日本株市場は、10-12月期決算発表における足元の業績底入れと、先行きの改善期待から持ち直すかとみえています。①国内における新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりする中、11都府県に対する緊急事態宣言の延長は不可避とみること、②米追加経済対策の成立を巡り不透明感が浮上していること、③今週発表されるISM製造業景況指数や雇用統計など米国の重要指標の悪化が見込まれることなどから、目先の景気減速懸念が意識されやすく、株価の重しに働くとみえています。但し、これらは一定程度市場に織り込み済みとみており、米個人投資家の投機的な売りを契機とする市場の混乱には引き続き注意が必要と考えますが、大きく下げ幅を広げる展開にはならないと予想しています。10-12月期決算発表において、業績の底入れが確認され、先行きの改善期待が維持されれば株価のサポートに働き、市場は徐々に持ち直しの動きが強まるとみえています。その他の注目材料として、米国では3日のISM非製造業景況指数、4日の製造業受注、5日の貿易収支、欧州では1日のユーロ圏失業率、2日のユーロ圏GDP、ドイツでは5日の製造業受注、中国では1日の財新中国製造業PMIなどが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社  
Asahi Life Asset Management Co., Ltd.  
URL: <http://www.alamco.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号  
加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会